

## ホワイトヘッドとキリスト教思想 ——プロセス神学の評価を中心に——

京都大学  
芦名定道

### <原稿・資料>

1. 問題—現代キリスト教思想におけるホワイトヘッド—
2. なぜ、ホワイトヘッドなのか
3. ホワイトヘッドの思弁哲学
4. プロセス神学の可能性

#### 1. 問題—現代キリスト教思想におけるホワイトヘッド—

現代のキリスト教思想全般におけるホワイトヘッドへの関心  
アメリカ／ドイツ／日本

#### 2. なぜ、ホワイトヘッドなのか

森田雄三郎, 1987

「プロセス神学とは、ホワイトヘッドとハーツホーンの影響下に、米国の土壌の上に成立した新しい動向である」

「批判の焦点が今日の技術社会とその人間生活の歪みの問題にあることが判明してくるにつれて、ホワイトヘッドの科学哲学に基づく現代文明についての包括的な形而上学的体系の強みを徐々に発揮するに至った。科学、人間と文化、宗教を包括するような経験論の体系は、米国のプラグマティックの伝統に親しみやすい多くの類似性を示していた。それと同時に、新しい技術社会の問題に対して、科学哲学の文明論に支えられたグローバルなパースペクティブを提供できた。ヨーロッパとは異なり、米国という特殊な土壌においては、プロセス哲学はまたプロセス神学である。哲学と神学との明瞭な境界線はあまり意識されていない。神学は自然神学であり、同時に哲学である」

「プロセス神学が東洋の諸宗教、とりわけ仏教への深い関心を持つことは、日本人としては、とくに注目しなければならぬであろう。二〇世紀の西洋哲学の中で、仏教思想との接触点を提供できる哲学は、ハイデッガーとホワイトヘッドを置いて、他に見当たらない。しかし、これらの哲学は、近代の西洋科学と技術の極限において仏教との接触点ともいべきものを提示するのであって、その根本動機は、現代の技術社会の問題にある。したがって、この根本動機を忘れた仕方の狭い比較宗教論は、時代錯誤であろう。」(44-47 頁)

#### 1. 近代以降のキリスト教が置かれた歴史的状況

ホワイトヘッドが注目されるのは、決して偶然ではない。それは、キリスト教思想が置

かれた問題状況に密接に関わっている。

- (1) 信仰と理性という古い問題の新たな展開（科学技術の問題）
- (2) 宗教的多元性の中のキリスト教

## 2. 世界像・コスモロジーの再評価

経験の直接性と、経験された実在世界の包括性・統一性

↓

1970年代以降の思想状況の中で、再評価される。

## 3. ホワイトヘッドの思弁哲学

### 3. ホワイトヘッドのプロセス哲学、思弁哲学

「思弁哲学は、われわれの経験のすべての要素を解釈する一般的観念の、整合的で論理的な体系を組み立てようとする試みである」（Whitehead, 1929, 1 頁、山本訳により引用）

「哲学の経験的側面」「直接経験の解明」「整合性ならびに論理性の要請によって統制される自由な想像力の働き」「発見の真実の方法は、飛行機の飛行のようなものである。それは特殊な観察の地盤から出発する。それは想像的一般化の稀薄な空中を飛行する。そして合理的解釈によって強められ、改めて観察するため、再び着陸する」「想像的合理化の方法」「拡張された応用」(5)、「直接的起源を越えた応用」「哲学的一般化」(6)、「哲学研究は、より大きな一般化へ向かっての航海である」(10)、「知識の体系化は、水ももらさぬ厳密な区画整理においてなされうるものではない。すべての一般的真理は、相互に制約し合う」(11)、「思弁の大胆さ」と「事実の前での完全な謙虚さ」との「均衡」(18)

### 4. 宗教と科学（キリスト教的創造論と進化論）との対立図式を越えて

有神論（超自然主義）と自然主義の二者択一を越えて

有神論的自然主義あるいは自然主義的有神論の可能性

グリフィン →（芦名、2006）、（芦名、2007）参照

### 5. 包括的な文明論の射程の中でのキリスト教

宗教的多元性の中でのキリスト教、環境危機の中でのキリスト教

カブ →（芦名、2005）参照

## 4. プロセス神学の可能性

### 6. パネンベルク

「無からの創造」とホワイトヘッドの創造概念（自己創造）

### 7. モルトマン

プロセス神学の創造論は、伝統的な「無から創造」ではなく、「混沌から秩序への創造」であると解する。

### 8. ホワイトヘッドは現代のキリスト教思想に問いを投げかけた

キリスト教は超自然主義をどれほどまでに保持しようというのか

### 9. キリスト教の核心に属する「超自然的なもの」を、現代においていかに説明し、意味づけうるのか。プロセス神学は、この問いに対する一つの回答といえる。

<文献>

- Whitehead, 1925 : Alfred North Whitehead, *Science and the Modern World*, 1925 (1967)  
A Free Press Paperback. (上田泰治・村上至孝訳『科学と近代世界』松籟社  
一九八一年。)
- Whitehead, 1929 : *Process and Reality. An Essay in cosmology*, 1929 (1969)  
A Free Press Paperback. (山本誠作訳『過程と実在』松籟社 一九七九年。)
- Whitehead, 1933 : *Adventures of Ideas*, 1933 (1967) A Free Press Paperback.  
(山本誠作・菱木政晴訳『観念の冒険』松籟社 一九八二年。)
- Cobb, 2002 : John B. Cobb Jr., *Postmodernism and Public Policy. Reframing Religion,  
Culture, Education, Sexuality, Class, Race, Politics, and the Economy*, State University  
of New York Press 2002.
- Griffin, 2000 : David Ray Griffin, *Religion and Scientific Naturalism. Overcoming the  
Conflicts*, Sate University of New York Press 2000, pp.26-28.
- Harthshorne, 1967 : Charles Hartshorne, *A Natural Theology for Our Time*, Open Court 1967.  
(大塚稔訳『自然神学の可能性』行路社 二〇〇二年。)
- Moltmann, 1985 : Jürgen Moltmann, *Gott in der Schöpfung. Ökologische Schöpfungslehre*,  
Chr.Kaiser 1985 (沖野政弘訳『創造における神——生態論的創造論』新教出版  
社、一九九一年)
- Pannenberg, 1988 : Wolfhart Pannenberg, *Anfang Atom, Dauer, Gestalt: Schwierigkeiten  
mit der Prozeßphilosophie*, in: *Metaphysik und Gottesgedanke*, Vandenhoeck 1988  
S.80-91. (座小田豊・諸岡道比古訳『形而上学と神の思想』法政大学出版局  
一九九〇年。)
- Pannenberg, 1991 : Wolfhart Pannenberg, *Systematische Theologie. Bd.2*, Vandenhoeck 1991.
- Walker, 2004 : Theodore Walker Jr., *Mothership Connections. A Black Atlantic Synthesis of  
Neoclassical Metaphysics and Black Theology*, State University of New York Press 2004.
- 森田雄三郎, 1987 : 「現代神学の動向」『現代神学はどこへ行くか』教文館、二〇〇五。
- 芦名定道, 2005 : 「ホワイトヘッドの形而上学とプロセス神学」『基督教学研究』(京都  
大学基督教学会) 25号、21-41頁。
- 芦名定道, 2006 : 「キリスト教と進化論」、金城学院大学キリスト教文化研究所編『宗教  
・科学・いのち——新しい対話の道を求めて』 新教出版社、102-123 頁。
- 芦名定道, 2007 : 『自然神学再考——近代世界とキリスト教』 晃洋書房。